

教育支援課 相談担当 巡回相談チーム

ほっと通信

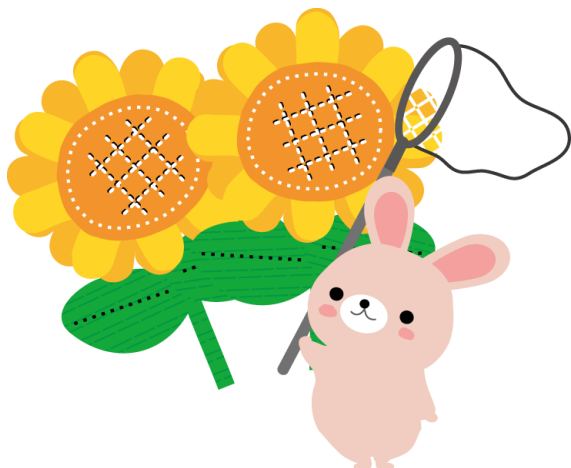
平成 27 年 9 月 1 日 第 25 号

発行：八王子市教育委員会

教育支援課 相談担当 巡回相談チーム

八王子市散田町 2-37-1 Tel.664-1615

(八王子市教育センター内)



年度当初の学校訪問をはじめとして、日頃より巡回相談チームの活動にご協力いただき、ありがとうございます。

昨年度は約 590 回、学校を訪問させていただきました。学校とのお話を振り返ると、担任の先生をはじめとする手厚い支援や校内でのバックアップ体制など、各校でなされている支援に我々が感銘を受けることも多くありました。

今年度も少しでもお役にたてるよう活動していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

今年度の教育支援課 相談担当 巡回相談チームの職員は以下の通りです。

○主査（市職員）

菅原 慎逸

○心理相談員（市嘱託員）

相崎 めぐみ ・ 近藤 正美 ・ 齋藤 登

○研究主事（市立小中学校 管理職経験者）

朝倉 正教 ・ 大越谷 正樹 ・ 小井塚 洋一

ちょっとした〇〇でなにかが変わる？

今年度は、クラスや生活の中で取り入れられる“ちょっとした〇〇”をご紹介します。〇〇の中には様々なことばが入るかと思います。大きな取り組みはもちろん効果も大きいですが、それだけでなく“ちょっとした”日常生活の積み重ねや経験が、役に立つことも多いのではないのでしょうか。そんな“〇〇”を先生方と一緒に考えていければと思います。

今号では、学習のベースとなる力づくりや、持っている力を発揮しやすくなる意識づくりに役立つようなものをいくつか取り上げてみました。我々も巡回相談で多くの学級を訪問させていただく中で、各先生方の様々な工夫を見つけることができました。授業内容に向かうウォーミングアップとして、集中力が途切れたときの切り替えとして、長い目で力をつけるトレーニングとして、次ページの工夫を取り入れてみるのはいかがでしょうか。

トレーニングにもなる ちょっとした〇〇

後出し負けじゃんけん

【行動する前に“ちょっと考えるちから”をのばす】

1. 後出しじゃんけんを行う際、あえて「負けてください」と指示する

負けてね！

パー！…じゃなくて負けるから“チョキ”！

じゃんけん“グー”

視覚的な情報への反応を抑制して、目的を達成する

3ヒントクイズ

【“概念を理解する／推理するちから”をのばす】

1. 3つのヒントを出して、それが何をあらわしているかを当てる
2. 例：「それは赤いものです」「それは四角い形をしています」「それは手紙と関係があります」

赤い…りんご？ポスト？
四角…りんごじゃないな

提示された概念にあてはまるものを、試行錯誤しながら引き出すための“推理力”を高める

アテンション フリーズ！

【“聞くことに集中するちから”をのばす】

1. よく話を聞いて覚えておくように、注意をうながす
2. 1分間スピーチを聞かせる（題材は、授業に関連した子ども向けのコラムや日常生活での出来事など）
3. スピーチ終了後、内容に関するクイズを出題する

夏の大三角形とは、ベガ・デネブ・アルタイル…

ベガとデネブとアルタイル…

夏の大三角形とは？

聞くことに注意を向ける、聴覚的な情報を整理して覚える

“あ”のつく言葉ゲーム

【“スムーズに思い出すちから”をのばす】

1. たとえば“あ”のつく言葉をたくさん書きだすよう指示する
2. 「“あ”のつく食べ物」「“あ”のつく学校にあるもの」など、ルールを決めながら行う方法もOK
3. “あ”だけでなく、いろいろなパターンで試してみる

“あ”がつく…
“アイスクリーム”！！

長期記憶から知識や情報を検索することや、語彙を増やすきっかけにする

何が描いてあったかな？

【“細部にも注目するちから”をのばす】

1. 絵を見せたのち、しまう（例：車の絵、風景など）
2. 絵に描いてあったものをできる限り思いだし、口頭で答えたり書かせたりする

良く見てね

何だったかな…

視覚的短期記憶の力や、細部への注意／注目の機能を高める

実施する際には…

- ここでご紹介した活動は、主に“頭をうまくはたらかせること”を念頭に置いたものです。
- 記載されたちから以外にも、“頭の中で一時的に情報を留めて考える”という作業の中では、*ワーキングメモリのちからが使われています。（*裏面もご参照ください）
- 集団で実施する際には、能力を高めるよりも気持ちを切り替える効果のほうが主となるかもしれません。学習活動とは違うことを意図的に行うことで、集中力を持ち直すことができるのではないかと思います。
- 隣同士でペアとなって取り組むことで、共同作業やコミュニケーション力を高めるなど、状況に応じた様々な方法が考えられると思います。
- “ちょっとした〇〇”は既に学級の様々な場面で行われていることと思います。ここでご紹介したもの以外にもアイデアを取り入れてみてはいかがでしょうか。

ブレイクタイムを設ける

授業の始めや終わりだけでなく、作業と作業の合間や子どもたちの集中が切れ始めてきたな…と思った際に、ブレイクタイムを設けることも有効な方法のひとつです。

また、身体が緊張しやすいお子さんに対するリラックスの方法として使うことや、意識や集中を高める方法としても活用することが可能であると考えられます。

【ブレイクタイムの例】

*呼吸法

（例）思いきり息を吐く→鼻で4秒かけて吸う→口で6秒かけて吐く

*起立／着席

（例）合図で“起立”“着席”を2～3回やってみる

*水を飲みに行く時間（給水タイム）を設ける

*となりや近くの子と話しをさせる

お子さんの発達段階に応じて、ブレイクタイムの頻度や内容を工夫していくことも大切です。

ぽけっと

「頭の中のメモ帳? ~ワーキングメモリー~」

「ワーキングメモリー」とは“頭の中に一時的に情報を留めて、それをもとに考えるちから”で、よく【頭のメモ帳】と例えられます。

この力は生活から学習まで幅広く使われます。たとえば、買い物の場面では、頭の中で買うものをいくつも覚えておく、残り金額を考えながら買うものを考える、他のお菓子が見えても考えないようにするなど、【頭のメモ帳】を使いながら複数のことをこなしています。他にも、掃除、洗濯、料理から、お小遣いの管理、天気予報を見て服装や予定を考える、テーマパークでどの順番で回るか考えるといったところまで、普段何気なくこの力を使うタイミングはたくさんあることがわかります。

人によってワーキングメモリーのちからには差があるため、中にはこうしたことが上手くできず“忘れっぽい”“いくつものことを同時にできない”といったお子さんがいるかもしれません。【メモ帳】がすぐにいっぱいになってしまって、作業をする場所が足りなくなってしまうのです。

そんなとき、やみくもに「覚えなさい!」「考えなさい!」ではなかなか上手いきません。どこがつかずきなのかを細かく分析し繰り返したりサポートしたりすることが大切です。今回ご紹介した“ちょっとした〇〇”を使って、上手く頭の中のメモ帳を使うトレーニングをしたり、ちからを補う方法を考えることも良いのではないのでしょうか。巡回相談でもつかずきを様々な角度から見るお手伝いができればと思います。



巡回相談のご案内

巡回相談では、市立小中学校に在籍する児童・生徒のうち、特別な支援が必要と思われるお子さんの状況を、心理相談員・研究主事等が授業観察や聞き取りを通して発達の特性的見立てを行います（障害の判定をするものではありません）。そして、学校内において、児童・生徒への支援をどのようにしたらよいか、先生方と一緒に考えていきます。児童・生徒の支援に関してはさまざまな手段・資源がありますが、その一つとしてぜひご活用ください。

巡回相談のお申し込みは、管理職または特別支援教育コーディネーターから電話でお願いします。巡回相談チームの職員が、児童・生徒の様子や学校の求めていることなどを聞き取ります。申し込み時に聞き取ることや、巡回相談の流れについては、年度当初の学校訪問の際にお渡しした資料をご覧ください。



電話受付 月～金 8:30～17:00

TEL 664-1615 または PHS[Kキョウイクセンタートクベツシエン2]